

令和2年度 財務レポート



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学

理事長あいさつ

本学は、平成 28 年 4 月に地域の若者に高等教育の機会を広く与えるべく公立大学法人となりました。これを契機に山陽小野田市の落ち着いた教育環境に根付き、自治体や企業からの連携協力を得ながら、“教員と学生の近さ”、“学生同士そして地域との緊密な繋がり”など本学の魅力と、“地域からの熱いご支援をいただく”素晴らしい環境のもとで、学生自身が有意義な大学生活を実感でき、「本学に入学して本当に良かった」と言っている、”山陽小野田スマイルシティキャンパス”を目指しています。

今後、少子化による就学人口の減少など激化する大学間競争、スマート社会の到来等の非常に複雑な社会構造の急速な変化を伴う厳しい大学経営状況の中で、本学に課せられた社会的使命を踏まえ、より一層のプレゼンスを継続的に高め勝ち残っていくためには、法人の安定した経営基盤のもと、創設以来の歴史と伝統を受け継ぎ、工学及び薬学分野の教育研究を通して人材を育て地域と共に発展していくことが重要です。

そのために、教職員が一丸となって戦略的かつ革新的な大学運営に努め、効率的かつ有効な業務遂行を意識した上で、強固な財政基盤の構築を図り、コンプライアンスを徹底することで、本学のステークホルダーである学生、御父母、市民、県民などの期待と信頼に応え、選んでいただける地域・社会連携の拠点づくりを進めて参ります。

学生たちが素晴らしい出会いを大切にして、実力を持って自らの将来を拓き、世界に大きく羽ばたけるように全力を尽くしますの
で、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和 2 年度の財務レポートをまとめましたのでご報告致します。
皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



公立大学法人山陽小野田市立
山口東京理科大学
理事長 池北 雅彦

目次

理事長あいさつ	1
決算総括	2
貸借対照表	3
損益計算書	4
キャッシュ・フロー計算書	5
行政サービス実施コスト計算書	6
決算報告書	7
令和 2 年度の主な取組み	
教育に関する取組み	8
研究に関する取組み	10
地域貢献に関する取組み	12

決算総括

令和2年度決算については、法人全体として123,444千円の当期総利益を計上しました。収入については、受託研究費等の外部資金獲得額の増加がありましたが、学生等納付金収入の減少や予定していた施設改修工事及び研究機器整備実施の延期により目的積立金取崩収入が減少し、収入合計で当初予算比35,609千円の減少となりました。支出については、外部資金獲得に伴い研究に係る経費の増加や、目的積立金を財源とした施設改修工事等を延期したことにより、支出合計で当初予算比173,922千円の減少となりました。

財務諸表相関図

貸借対照表 (P.3)

資産	固定資産	固定負債	負債
		流動負債	
	流動資産	資本金	純資産
		資本剰余金	
		目的積立金	
	現預金	当期末処分利益 (当期総利益)	

利益処分に関する書類 (P.4)

当期末処分利益(当期総利益)
利益処分額 目的積立金(積立額)

キャッシュ・フロー計算書 (P.5)

業務活動	(支出)	業務活動(収入)
財務活動	(支出)	財務活動(収入)
投資活動	(支出)	投資活動(収入)
	資金期末残高 (一部)	

損益計算書 (P.4)

経常費用	業務費	運営費交付金収益	経常収益
		自己収入等	
	一般管理費	臨時損失	臨時利益
	当期総利益	目的積立金取崩額	

行政サービス実施コスト計算書 (P.6)

損益計算上の費用	経常費用	(控除)自己収入等
		(差引)業務費用
	臨時損失	機会費用

行政サービス
実施コスト

損益外減価償却相当額
引当外退職給付増加見積額 等

貸借対照表

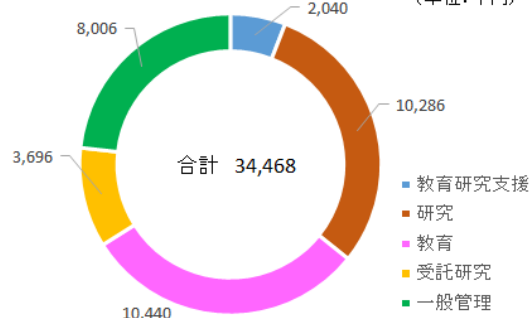
貸借対照表は、決算日（令和3年3月31日）時点における資産・負債・純資産を表示した、財政状態を明らかにするための報告書です。貸借対照表の負債・純資産はどのようにして資本を調達したかを表し、資産は調達した資本をどのように使用しているのかを表します。

（単位：千円）

区分			令和2年度 開始時	令和2年度 期末時	区分			令和2年度 開始時	令和2年度 期末時
資産 の 部	土地		816,130	816,130	負債 の 部	資産見返負債		797,762	744,440
	建物		2,487,090	2,348,025		長期リース債務		3,558	－
	構築物		30,099	34,866		固定負債合計 ④		801,320	744,440
	車両運搬具		3,866	2,810		運営費交付金債務		50	50
	工具器具備品		346,128	297,813		預り補助金等		－	－
	工具器具備品(リース)		2,396	1,290		寄附金債務		15,929	25,301
	図書		312,327	319,404		前受受託研究費等		2,539	7,159
	有形固定資産合計		3,998,036	3,820,338		前受共同研究費		1,877	6,780
	ソフトウェア		56,511	29,843		未払金		288,828	156,417
	特許権		－	578		未払消費税等		3,287	2,422
	特許権仮勘定		653	2,705		リース債務		3,558	3,558
	無形固定資産合計		57,164	33,126		前受金		3,160	8,277
	長期前払費用		6,682	6,703		預り科学研究費補助金		10,532	27,607
	長期性預金		100,000	－		預り金		19,393	19,692
	投資その他の資産合計		106,682	6,703		流動負債合計 ⑤		349,153	257,263
	固定資産合計 ①		4,161,882	3,860,167		負債合計 ⑥(④+⑤)		1,150,473	1,001,703
負債 の 部	現金及び預金		1,089,156	1,194,790	純 資 産 の 部	資本金(地方公共団体出資金)		3,785,842	3,785,842
	未収学生納付金収入		9,447	6,152		資本剰余金		▲ 535,686	▲ 680,536
	その他未収入金		12,570	37,165		利益剰余金		913,034	1,036,479
	前払費用		40,608	45,214		純資産合計 ⑦		4,163,190	4,141,785
	流動資産合計 ②		1,151,781	1,283,321					
資産合計 ③(①+②)			5,313,663	5,143,488	負債・純資産合計 ⑧(⑥+⑦)			5,313,663	5,143,488

工具器具備品目的別内訳

（単位：千円）



令和2年度に取得した工具器具備品の目的別の内訳です。取得価額を表し、減価償却前の金額を記載しています。

損益計算書

(単位: 千円)		
区分		令和2年度
経常費用	教育経費	411,461
	研究経費	151,893
	教育研究支援経費	92,210
	受託研究費	34,577
	共同研究費	23,320
	人件費	1,356,780
	業務費合計	2,070,241
	一般管理費	453,178
経常費用合計①		2,523,419
経常収益	運営費交付金収益	1,545,521
	授業料収益等	814,892
	受託研究等収益	34,921
	共同研究収益	23,403
	寄附金収益	14,885
	補助金等収益	83,442
	資産見返負債戻入	108,282
	財務収益	171
	雑益	21,346
経常収益合計②		2,646,863
経常利益③(②-①)		123,444

損益計算書は、ある一定期間（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）の業務活動の成果を表した報告書です。経営の理念に基づいてサービスを社会に提供し、満足していただいた活動の結果を利益（又は損失）として計算したものです。

人件費内訳

役員人件費： 39,419千円
教員人件費： 1,044,244千円
職員人件費： 306,117千円

授業料収益等内訳

授業料収益： 671,944千円
入学金収益： 100,476千円
検定料収益： 40,968千円
手数料収益： 1,504千円

臨時利益④	1,316
臨時損失⑤	1,316
当期純利益⑥(③+④-⑤)	123,444
目的積立金取崩額⑦	0
当期総利益⑧(⑥+⑦)	123,444

利益処分に関する書類（要約）

(単位: 千円)	
当期末処分利益	
当期総利益	123,444



(単位: 千円)	
利益処分額	
教育研究の質の向上及び施設準備積立金	123,444

地方独立行政法人法第40条第3項により、設立団体(山陽小野田市)の長の承認を受ける必要がある金額です。

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間の収入（キャッシュ・イン）と支出（キャッシュ・アウト）を捉え、キャッシュの流れを計算して表示する報告書です。

(単位: 千円)

区分		令和2年度
支出	原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 609,881
	人件費支出	▲ 1,374,333
	その他の業務支出	▲ 426,784
収入	運営費交付金収入	1,590,987
	授業料等収入	724,722
	受託研究等収入	69,379
	補助金等収入	83,442
	寄附金収入	26,733
	その他の収入	14,046
	預り金の純増減額	17,374
業務活動によるキャッシュ・フロー合計 ①		115,685
支出	定期預金の預入れによる支出	▲ 120,000
支出	有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	▲ 106,664
収入	定期預金の払戻しによる収入	20,000
収入	長期性預金の払戻しによる収入	100,000
収入	利息及び配当金の受取額	171
投資活動によるキャッシュ・フロー合計 ②		▲ 106,493
支出	ファイナンス・リース債務の返済による支出	▲ 3,558
財務活動によるキャッシュ・フロー ③		▲ 3,558
資金増加額 ④ (① + ② + ③)		5,634
資金期首残高 ⑤		1,069,156
資金期末残高 ⑥ (④ + ⑤)		1,074,790

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳	
現金及び預金	1,194,790,000 円
定期預金	▲ 120,000,000 円
資金期末残高	1,074,790,000 円
重要な非資金取引	
工具器具備品	5,531,850 円
ソフトウェア	514,800 円
図書	514,477 円
管理物品	371,844 円
合計	6,932,971 円

資金運用について

当法人は、資金運用については地方独立行政法人法第43条の規定に基づき、預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しております。

資金運用に当たっては、現状では預金により運用しております。

ファイナンス・リース

①ソフトウェア 14,715千円
(平成28年から6年契約
年間 2,452千円の支出)

②工具器具備品 5,530千円
(平成29年から5年契約
年間 1,106千円の支出)

行政サービス実施コスト計算書

(単位:千円)

区分		令和2年度
業務費用	業務費	2,070,241
	一般管理費	453,178
	臨時損失	1,316
	損益計算上の費用合計①	2,524,735
	授業料等収益	▲ 814,892
	受託研究等収益	▲ 58,324
	寄附金収益	▲ 14,885
	資産見返運営費交付金等戻入	▲ 17,867
	資産見返寄附金戻入	▲ 36,388
	雑益・臨時利益等	▲ 13,341
(控除)自己収入等合計②		▲ 955,697
業務費用合計③(①+②)		1,569,038
損益外減価償却等相当額④		144,850
引当外賞与増加見積額⑤		1,036
引当外退職給付増加見積額⑥		20,913
機会費用	国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	513,679
	地方公共団体出資の機会費用	3,813
	機会費用合計⑦	517,492
行政サービス実施コスト(③+④+⑤+⑥+⑦)		2,253,329

行政サービス実施コスト計算書は、本法人が業務を運営するにあたって、市民のみなさまに負担いただいているコストを表す報告書です。業務費用に加えて、機会費用等（山陽小野田市の資産等を利用したことによる市民のみなさまにとっての負担額など）を加算したものから、業務運営により得られた自己収入等を控除して算出しています。

費用	機会費用 損益外のコスト
自己収入	行政サービス実施コスト

地域への経済波及効果

山口東京理科大学が立地することによる
地域への経済波及効果(令和2年度)

	山口県	山陽小野田市
直接効果	25.7 億円	14.2 億円
生産誘発額	21.2 億円	11.6 億円
付加価値誘発	13.2 億円	7.3 億円
総合効果	60.0 億円	33.1 億円

行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

(1) 国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計上方法

山陽小野田市から、大学の建物等について無償貸与を受けており、これらについては、山陽小野田市における取得原価を基礎とした定額法による減価償却額相当額を計上しております。また、学外に設置された薬草園に係る使用料については、山陽小野田市都市公園条例に基づき算定した額を計上しております。

(2) 地方公共団体出資の機会費用の計上方法

機会費用は、新発 10 年国債の令和 3 年 3 月末の利回りを参考に 0.120% で計算しております。

決算報告書

第4期(令和2年度)

(単位:千円)

区分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)
収入	運営費交付金収入	1,590,987	1,590,987
	補助金収入	79,873	91,730
	学生等納付金収入	745,920	722,262
	財務収入	130	171
	雑収入	11,670	8,820
	受託研究収入	22,606	43,146
	共同研究収入	24,662	24,701
	寄附金収入	8,170	27,392
	目的積立金取崩額	60,800	0
	収入合計①	2,544,818	2,509,209
支出	教育経費	363,850	324,562
	研究経費	120,378	101,076
	教育研究支援経費	134,960	106,280
	受託研究費	22,606	37,887
	共同研究費	24,662	20,437
	寄附金	8,170	18,022
	人件費	1,323,359	1,352,348
	一般管理費	545,833	410,284
	予備費	1,000	-
	支出合計②	2,544,818	2,370,896
収入-支出(①-②)		-	138,313

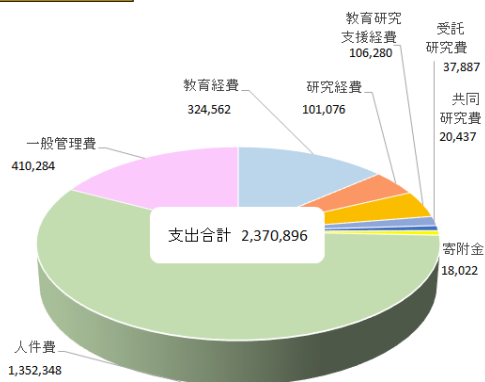
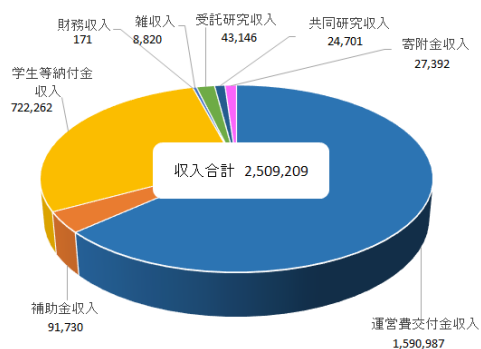
授業料収入等の減少

外部資金獲得額の増加

施設改修工事及び研究機器整備実施を延期したことにより減少

外部資金獲得額の増加に伴い、研究費の支出も増加

施設改修工事の延期により減少



本学の収入には、①市等からの収入（運営費交付金など）、②自己収入（学生等納付金、補助金、受託研究費、寄附金など）、③その他の収入（財務収入など）があります。

中でも、自己収入は大学の経営努力によって大きく変動します。本学では、外部資金獲得に向けた取り組みなどを通して、さらなる自己収入の増加を目指しています。

令和2年度の主な取り組み

教育に関する取り組み

薬学部1年生が特別授業で「認知症サポーター養成講座」を受講しました

薬学部1年生が学術と地域文化1の授業の中で「認知症サポーター養成講座」を受け、認知症の高齢者との関わり方について学びました。

山陽小野田市「地域包括支援センター」のご協力により、荒川智美所長がこの講座の講師として授業を展開してくださいました。授業では、認知症の方への接し方について、急がせない、驚かせない、自尊心を傷つけないことが大切であること、認知症について正しく理解し、偏見を持たずに接する必要性を考える時間をもちました。



本学学生が感染防止啓発ポスターを制作しました

山陽小野田薬剤師会の要請を受け、新型コロナウイルス感染症に対する感染防止や基礎知識などの啓発ポスターを本学の学生が制作しました。

制作されたポスターのうち各部門の入賞者には、11月26日（木）に望月正隆学長立会いの下、表彰式があり、山陽小野田薬剤師会の上林雅樹会長から一人ひとりに記念品が授与されました。



山口県GMPカレッジワークショップが開催されました

山口県GMPカレッジとは、山口県、山口県製薬工業協会、本学の産学公連携により医薬品製造所の人材育成・人材確保の支援およびGMPに係る人材育成プログラムの作成・実施を目的とした、本学薬学部学生および医薬品製造所新規従事者向けの事業です。

12月に薬学部3年生を対象に田辺三菱製薬工場株式会社小野田工場様の従業員の方々が装着したスマートグラスを通じてのオンラインでの工場内見学を行ったほか、薬学部2年生および山口県内の医薬品製造所新規従事者の皆様を対象に、株式会社シーエムプラス 高橋治様、山口県製薬工業協会 松枝直樹様（日本歯科薬品株式会社 常務取締役製品開発本部長）にご講演いただきました。

1月には、薬学部3年生を対象に日産化学株式会社小野田工場様から「日産化学株式会社と日産化学株式会社小野田工場の紹介」と「医薬品製造に活かす有機化学（日産化学の医薬品製造法開発）」についてご講演いただき、学生と質疑応答が行われました。



田辺三菱製薬工場株式会社と包括連携協定を締結しました

田辺三菱製薬株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長：上野裕明）の連結子会社である田辺三菱製薬工場株式会社（本社：大阪市）と本学は、互いに協力して取り組むべき新たな技術の創造と将来の地域医療を支える人材の育成を進めるため、令和 2 年 12 月に包括連携協定締結式を本学で執り行いました。

締結式では、田辺三菱製薬工場の藤井洋二代表取締役社長と本学の池北雅彦理事長がそれぞれ協定書に署名を行いました。

立会人として臨席された山陽小野田市の藤田剛二市長から、「田辺三菱製薬工場様は山陽小野田市に対しても積極的に貢献をいただいている企業であり、山口東京理科大学と研究・教育の面で連携することによって、今後、山陽小野田市の更なる発展と人材の創出に期待する。」との祝辞をいただきました。



市及び市教育委員会・市内高校と教育連携協定を締結

山陽小野田市、山陽小野田市教育委員会、厚狭高等学校、小野田高等学校、小野田工業高等学校、サビエル高等学校、山陽小野田市立山口東京理科大学は「学ぶ喜び、知る喜び」をテーマに、市、教育委員会、市内高校、大学が緊密な協力関係を築き、山陽小野田市域における小学校から大学までの一貫教育を目指し、進学支援活動、教育支援活動、生涯学習支援活動、その他教育連携の 4 項目で連携する「包括連携教育・協力に関する協定」を締結し、令和 2 年 11 月に協定締結式を山陽小野田市役所に執り行いました。

協定締結式では、藤田剛二山陽小野田市長、長谷川裕教育委員会教育長、村山晋一校長（厚狭高等学校）、土井浩校長（小野田高等学校）、齊藤英一郎校長（小野田工業高等学校）、松原秀樹校長（サビエル高等学校）、望月正隆学長（本学）が協定書に署名を行い、固い握手が交わされました。



白石教授が日本写真学会学術賞を受賞

一般社団法人日本写真学会において、令和2年8月、本学応用化学学科の白石 幸英教授が2020年度学術賞を「複合銀コロイド粒子の創製と応用に関する研究」で受賞しました。

日本写真学会学術賞は、写真および関連する分野において学術的に顕著な研究業績を挙げた日本写真学会会員に贈られるもので、白石教授の研究は、銀塩写真で養った銀粒子のアンビエント技術の横展開に貢献するもので、日本写真学会の学術賞に値するものと認められ、今回の受賞となりました。



本学学生が電気学会中国支部奨励賞を受賞

本学学生が令和2年度電気・情報関連学会中国支部連合大会において「電気学会中国支部奨励賞」を受賞しました。

同賞は同大会において優秀な論文発表をした学生に対し授与されるものです。

受賞内容の詳細については以下のとおりです。

■受賞名：電気学会中国支部奨励賞

■受賞者：工学部 電気工学科 4年

厚東 朋希（指導教員：森田 廣 教授）

■講演論文：環境温度の微生物燃料電池発電特性への影響



魅力ある大学づくりに向けて



令和2年度学生表彰式にて

① 志願者情報

令和3年度の入学者選抜試験において、入学定員工学部200人に対して1,433人、薬学部120人に対して906人の志願者がありました。

② 学生満足度

令和元年度山口東京理科大学大学生生活意識調査での設問「全体的にみて本学の学生生活に満足していますか」に対して、88%の学生より「とても満足している」、「まあ満足している」の回答をいただきました。

③ 就職率

令和2年度の学部卒業者96%、修士課程修了者90%という、高い就職率を達成することができました。

本学大学院生が日本科学協会において笹川科学研究助成を獲得

本学大学院生が日本科学協会において笹川科学研究助成を獲得しました。

立案した課題「チタン金属表面にアナターゼ型酸化チタンを形成する新規合成方法の開発と水質浄化への応用」が優秀と判断され、研究助成金が授与されました。本テーマは、助教やポストドクを含む 35 歳以下の若手研究者の応募の中から、29.3%の採択率で選出されたものになります。

■対象者：工学研究科 修士課程2年 辻倉 景子

■採択題目：チタン金属表面にアナターゼ型酸化チタンを形成する新規合成方法の開発と水質浄化への応用



小野田助教が第37回井上研究奨励賞を受賞

本学薬学部薬学科の小野田淳人助教が、公益財団法人井上科学振興財団による第37回井上研究奨励賞を受賞しました。

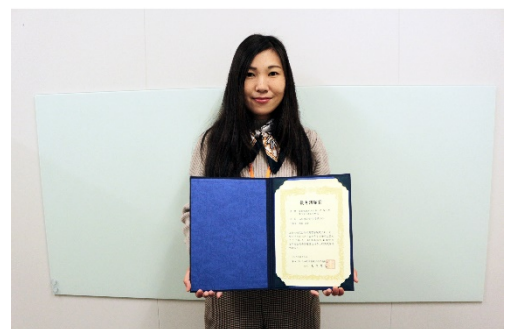
井上研究奨励賞は、理学、医学、薬学、工学、農学等の分野における過去3年間に博士の学位を取得した37歳未満の研究者が対象で、優れた博士論文を提出した若手研究者に送られる賞です。受賞者は全国の関係大学長に推薦された者の中から40名で、小野田助教はその中の一名に選ばれました。



堀口講師が第41回日本臨床薬理学会学術総会優秀演題賞を受賞

令和2年12月、本学薬学部薬学科の堀口道子講師が、第41回日本臨床薬理学会学術総会において優秀演題賞を「家族性乳がんにおけるBRCA1遺伝子治療の有用性」で受賞しました。

堀口講師はゲノム編集技術を用いて、がんや生活習慣病の原因となっている遺伝子を正常化し、悪性化した幹細胞を正常に戻す治療法の研究をしています。また、がんの外科的治療後の組織再建のため幹細胞を用いた再生治療の開発にも取り組んでおります。



地域貢献に関する取り組み

山陽小野田市民病院と包括連携・協力に関する連携協定を締結

令和2年12月、両者が山陽小野田市立であることを前提とし、知的・人的資源の交流及び活用を図り、地域の医療並びに保健・福祉の発展に寄与する事を目的として、「包括連携・協力に関する連携協定」を締結しました。

締結式では、山陽小野田市民病院の矢賀健病院事業管理者から「現在に行われている共同研究の連携強化、薬学部生の実習機関としての受け入れ、大規模災害時の医療薬事支援など包括的な活動の強化につながることを期待します。」とのご挨拶をいただきました。



本学教員が、山口県災害薬事コーディネーター養成研修会の講師を務めました

令和2年12月に第1回山口県災害薬事コーディネーター研修会が開催され、本学薬学部教員の恵谷誠司教授と相良英憲准教授が座学や演習で講師を務めました。

二人の教員は、研修内容の決定段階から山口県庁薬務課・山口県薬剤師会に協力する形で携っており、受講を終えた24名の薬剤師が県内初の災害薬事コーディネーターとして認定されました。



本学薬学部教員が「幼児のための感染対策カルタ」を作成

本学の研究推進機構では、地域が抱える課題を教員が研究し、その成果を地域に還元する「地域課題解決研究事業」に取り組んでいます。

この度、地域課題として取り組んだテーマの1つである「新型コロナウイルスやインフルエンザなど感染症への直接的間接的予防・対策支援」の成果として、本学薬学部の坂井久美子講師（研究者代表）および共同研究者の百瀬江教授、福島聡助教らが感染症対策に係る「幼児のための感染対策カルタ」を作成しました。

同カルタは、坂井講師らが発案・企画したものでイラストから文書まで完全オリジナルとなっており、幼児が遊びながら感染症予防について学ぶことができるものとなっています。

今後、近隣の幼稚園や保育園において、このカルタが活用されることを大いに期待しています。



地域貢献に関する取り組み

小野田高等学校にて薬学部健康講座を行いました

令和2年12月、山口県立小野田高等学校の「お薬教室」において、薬学部の相良英憲准教授（臨床薬学系医療安全学分野）による健康講座「体を知って薬とつきあう ～健康を維持するための生活の知恵～」を行いました。

この「お薬教室」は、生徒自らが主体的に心身の健康の保持増進に取り組む「健康自立」を健康保健教育のモットーとする小野田高等学校が、山口東京理科大学薬学部と連携して取り組んでいるもので、自らの健康に対して関心を持ち、薬とその適切な使用方法等についての知識・理解を深め、家庭や学校の実際の生活場面に生かすことのできる内容となっています。



産学金連携の取組を紹介します

令和2年7月、つねまつ菓子舗（大字西高泊）様と、本学（薬学部薬学科楠瀬直喜助教）が共同で開発した体にやさしいスイーツ「健想菓 はぶ茶ワーズ」の新製品発表会がありました。

「健想菓 はぶ茶ワーズ」は、クリームとクッキー生地にはぶ茶粉を配合した新しいダックワーズです。㈱西京銀行仲介のもと、恒松社長のおいしく体にいいお菓子が作りたいという想いと、楠瀬助教の薬学研究により地域貢献したいという想いがマッチングし、約9か月の共同開発期間を経て完成しました。



大学発オリジナルクッキーの完成報告会について

令和2年6月、大学発のオリジナルクッキーの完成報告会が山陽小野田市役所で行われました。

山陽小野田市市内洋菓子店「トロアメゾン」水上社長が商品化にあたっての経緯や苦労された点などを、本学池北理事長立ち会いの下、藤田剛二市長に報告されました。

このオリジナルクッキーは、本学学生のアイデアを基に、地元特産の寝太郎かぼちゃを生地に練り込んだものを、「トロアメゾン」様に本学と山陽小野田市のコラボ商品として商品化していただきました。

